

●院長のご紹介



院長 澤田 将幸
医学博士

【資格】
精神保健指定医
日本精神神経学会認定 精神科専門医
日本児童青年精神医学会認定医

【所属学会】
日本精神神経学会
日本児童青年精神医学会

●基本理念

**患者さまの気持ちに寄り添ったサポートを行い、
適切で安心できる医療を提供いたします。**

どんな人でも、つらいことや悲しいことが重なると気持ちがしんどくなります。そんな中で、患者さまの気持ちに寄り添ってサポートすることで、より安心できる医療を提供したいと考えております。また、心理士が心理相談を行うことで、補強してまいります。

**患者さまが主体的に関われるように、
丁寧かつ適切な情報を発信してまいります。**

受診する際には、誰しも緊張したり、気分が落ち込んだり、不安になったりするものです。当院ではできる限り、そのような不安を取り除けるように、開放的な雰囲気づくりに努めます。さらにより患者さまが主体的に関われるように、院内にて様々な情報を出来る限り丁寧に発信してまいります。

**全般的視点に加えて専門的視点からも
治療にアプローチいたします。**

現在の医学は、日進月歩で日々新しい治療法や疾患原因が開発・解明されております。大学病院の最先端医療から地域医療、子どもから老人、薬物療法から運動療法と幅広い全般的なメンタルヘルスの経験をもとに治療を行ってまいります。それに加えて、大学病院や精神科急性期病院で経験及び研究してきた専門的知見も含めて治療方針を説明してまいります。

地域医療に貢献いたします。

地域医療に貢献することが重要な責務と考えています。堺市及び近隣地域で働いてきたネットワークを様々な形でお役立ていただければと考えております。精神疾患や発達障害やその他様々な問題により就労が困難な場合も多いと思います。当院では就労支援の関係機関と連携しながらそのような問題にも取り組みます。

Information



〒591-8032 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁1-3 中もず牧原ビル2階

地下鉄「なかもず」駅 5番出口より徒歩約3分
南海「中百舌鳥」駅 南出口から徒歩約4分
南海バス「中もず駅前通」バス停 下車すぐ

お車でお越しの方へ

当院は駐車場がございません。駐車場をご利用の方は、お近くのタイムズ、コインパーキングをご利用ください。

診療科目：心療内科・精神科・児童・思春期精神科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	●	●	●	/	●	●
午後 15:30~18:30	●	●	●	/	●	/

休診日 木曜・土曜午後 / 日曜・祝日

※ 月～金曜日/午後 13:00~15:00 (予約診察のみ)

※ 土曜日/午後 13:00~16:00 (予約診察のみ)

072-252-0101

<http://sawada-mental-clinic.com>

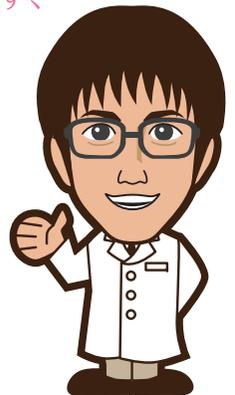


さわだメンタルクリニック

— 心療内科・精神科・児童・思春期精神科 —



こころの病、身体の病に関わらず、
やはり早期発見、早期治療が
治療の大原則です。
決して自分ひとりでは
悩まねば一度わたしたちにご相談ください。



診療内容

当院で診療している症状のご案内です。
ここに記載されている病状に限らず、こころの病気は早期発見、早期治療が大切です。まずは、お気軽にご相談ください。

うつ病

うつ病は、気分が落ち込む、意欲がわかない、夜眠れない、食欲がない、不安な気持ちが続かない、自分を責めてしまうなどの症状が現れる病気です。脳内の神経伝達物質がうまく働いていないことが原因の1つではないかとされています。

おとなの発達障害

(成人期PDD、成人期ADHD)

おとなの発達障害は現在注目が集まっている障害です。コミュニケーションが苦手、不注意なミスを繰り返す、こだわりが強く融通が利かない、感覚過敏などがあり些細なことでパニックになる、などの特性から日常生活に支障を来してしまいます。薬物療法などの選択肢も出てきています。就労支援が必要になる方も多い障害です。

こどもの発達障害

広汎性発達障害 (PDD)

自閉症やアスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害などが含まれますが、社会性の障害、コミュニケーションの障害、こだわりの3つ組の障害と言われています。具体的な症状は、視線が合いにくい、うなずいたり、愛想笑いのような仕草や表情が少ない、雰囲気や空気が読めない、冗談がわからない、特定の物を徹底的に集める、あることへの知識が深く、「博士」と呼ばれているなどが挙げられます。

こどもの発達障害

ADHD (注意欠如・多動性障害)

発達に不相应な著しい不注意、多動、衝動性を特徴とする行動の障害です。具体的な症状は、忘れ物が絶えない、裏表のプリントで裏を忘れるなど、不注意なミスを繰り返す、じっと座ってられない、順番を待てない、つい手がでてしまう、何かに集中することがあれば、すぐに行動するなどが挙げられます。

不眠症 (睡眠障害)

様々なストレス、生活習慣、身体疾患やうつ状態や統合失調症など他の精神疾患が影響し不眠を呈します。不眠はそのタイプから、寝つきが悪い(入眠障害)、途中で何回も目が覚める(中途覚醒)、早く目が覚める(早朝覚醒)、睡眠時間は十分にとれているが熟眠感がない(熟眠障害)などに分けられます。

認知症 (物忘れ)

老化により脳の萎縮が進み次第に物忘れなどが増えてきます。これは老化現象として一般的ですが、認知症になるとこれよりも速くに認知機能の低下が進んでしまいます。認知症にもアルツハイマー型認知症・血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症と様々なタイプがあります。

強迫性障害 (OCD)

やめたい、意味がないとわかっていながら、ある考えがいつまでも頭から離れない、ある行動を繰り返さない気が済まない病気です。たとえば、手が痛くなるくらい、何度も手洗いを繰り返す、鍵をかけたか、ガスの栓を締めたか、何度も同じことを確認する、ばかり考えていると分かっていても、頭の中で同じ考えを繰り返すなどの症状があげられます。

適応障害

仕事や家庭などの環境がストレスとなり、不安や抑うつやイライラなどの症状があらわれる疾患です。特に周りの環境が新しくなったとき(昇進・出産・結婚・離婚・就職)に環境になじみにくくストレスを感じ、心身のバランスを崩してしまうこともあります。

パニック障害

特に原因がなく、身体的な異常もないにも関わらず、突然、動悸や呼吸困難、頭痛やめまいなどの発作が起こる病気です。「この発作で死んでしまうのではないかと」や「また発作が起こったらどうしよう?」という不安にさいなまれ日常生活に支障を来す場合が少なくありません。またうつ病を併発することも多い疾患ですので早期発見・早期治療が非常に重要となってきます。

自律神経失調症

自律神経は循環・呼吸・消化・発汗・体温調節・内分泌調節・生殖調節・代謝など身体のあらゆる部分に関わっています。この自律神経(交感神経・副交感神経)のバランスが崩れると、心身に様々なトラブルを引き起こします。これが自律神経失調症です。検査をしても症状を覆付ける身体的な問題が認められないことも特徴の1つです。

社交不安障害 (SAD)

会議など、人前で話をするといった、注目を浴びる状況に置かれた場合に、過剰に強く不安や緊張を感じてしまい、震え・動悸・発汗などが出現し、いつもなら出来ることがスムーズに出来なくなる病気です。強い不安や恐怖を感じるため、このような状況を避けるようになり、社会生活に支障が生じます。

躁うつ病 (双極性障害)

双極性障害と呼ばれることもあります。うつ状態と躁状態を繰り返すことが特徴で、はじめはうつ病と診断され、経過中に躁状態が出現し躁うつ病と診断される事もあります。今まで元気でもバリバリ仕事をして活動的であった人が突然にうつ状態になった場合は躁うつ病の可能性ががあります。

統合失調症

考えがまとまらなくなったり、実際には見えないものが見える(幻視)、聞こえない声が聞こえる(幻聴)や誰かに監視されているような気がする(被害妄想)などの精神症状が出現します。できるだけ早期に治療を行うことが予後に影響すると言われています。

摂食障害

拒食症・過食症という単体の呼び名の方が有名かもしれませんが、それらを総称して摂食障害といえます。過度のダイエットからくる強迫観念で「拒食症」に陥ったり、日常のストレスから、食べることがストレスから逃げる方法になってしまい「過食症」に陥ってしまうことがあります。

転換性障害

転換性障害は、ストレスや葛藤が身体の症状に置き換えられて、失声(声が出にくい)や失歩などの運動障害や、視力障害や聴力障害などの感覚異常を引き起こします。なぜそのような症状を出現しているのかを理解することが治療の始まりになります。

最後に…

ここで説明を行った病気の症状は一例を紹介したもので、記載された症状がその病気を持つ方全員に当てはまるわけではありません。また症状のどれかが当てはまるからといってその病気であることを示すものでもありません。病気の診断及び治療に関しては、必ず医師による説明を受けるようにしてください。

院内紹介

患者さまの不安を取り除けるように開放的な雰囲気づくりに努めます。



診察室1



受付



待合室



キッズスペース



診察室1



診察室2



クリニック外観